



診察室

ざくばらん

ほとんどが

耳鼻科の病気

難聴の原因

「幽霊の正体見たり枯れ尾花」という。幽霊は、ただの枯れススキの穂だった。確かめると、案外平凡なものだったりして。

80歳のA子さん。1年前も、脳梗塞の心配で大騒ぎした。今回は、「この頃、ことに左の耳が聞こえにくくなった。耳の神経にがんでもできたのか？それで手術したひとがいる」と、声が震えている。

耳の神経にがんはできないから、「聴神経腫瘍」という耳の神経の大きさものごとを言っているのである。A子さんの症状は、左側に強い難聴だけだ。軽い耳鳴りはある。が、耳鳴りはずっと同じで、左だけ強くなったというわけではない。目

まいもなければふらつきもない。

さて、聴神経腫瘍は、発生頻度が年間10万人に1人という珍しいものだ。見つければまず医師が喜ぶ。でも、聴神経腫瘍は良性である。すでに大きくならない。腫瘍があるなら、1年前に受けたMRI（磁気共鳴画像装置）で、すでに見付かっているはずである。

腫瘍ではないと説明しても、「なら、なぜ耳が聞こえない？」と食い下がる。ウーム。たいがいの難聴は、耳鼻科の病気が原因なのだ。と、ここで、似た症状の患者さんのことを思い出した。すぐに耳鼻科へ紹介。で、なんのことはない。難聴の原因は、耳垢が耳の穴に詰まった耳垢塞栓と分かったのだ。女性は、ある程度の年になると、耳掃除の回数が減るのか？高齢の女性で、耳垢で難聴というひとはこれで何人目だろう。

年を取るだけで、難聴になりやすい。でも、放置するのは良くない。が、頭の病気はまれだ。難聴が起きたり、進行したりしたら、まずは耳鼻科を受診してほしい。と書いたら、耳鼻科が忙しくなりすぎて、先生たちに恨まれるかも。ま、そんなことはないか。このコラム、どれだけのひとが読んでくれるやう。

（石黒修三 いしぐろクリニック

・ 脳神経外科専門医、金沢市在住、射水市出身）

イラスト・野畑桃花

